

「まずは自分崩しから PART I」

農業や自然食、エコビレッジの暮らしに興味があり、ここを何度か訪れたことがあるさーさん。今回は、5才のお子さんと旦那さんのことでいさどんに相談をするため、ファミリーを訪れました。

さーさん：

子どもが去年の夏頃から幼稚園に行きたがらず、体調を崩して休園していました。その後体調が良くなってきたので、今年の4月からまた通わせようと思っていたのですが、幼稚園で色々なトラブルがあったり先生がきついで迷った挙句、幼稚園をやめ、自主保育に通わせたり、現在は地元のコミュニティに参加しています。今はそんなに不足は感じていないのですが、今の状態で良いものなのかアドバイスをお願いします。

最初は子どものことだけ相談しようと思っていたのですが、旦那さんのこともやっぱり気になっています。旦那さんはある保健士さんから発達障害だと指摘され、以前は旦那さんが恐くて私も子どももおびえていたのですが、色々なことを試して大分丸くなり私も楽になってきました。旦那さんもとても努力してくれているので感謝しているのですが、かなり甘えん坊で毎朝10分以上抱っこしないと落ち着かないのです。人見知りも激しく、今日の作業も私と別々になるとしたら、「それは絶対嫌だ！それなら帰る」と言い出しました。

でも、今の時期一番大切なのは子どものことなので、子どもについて私たちがどうあるべきなのかアドバイスをいただけたらと思います。私も過保護だったり色々な欠点があると思いますので、客観的に見ておかしいところがあれば教えていただけたらと思っています。

いさどん：

お子さんが幼稚園に通っていた時に体調を崩したというのは、どういう状態だったのですか？

さーさん：

突然、アトピーと喘息になってしまったのです。

いさどん：

それは心因性のものかもしれませんね。幼稚園に行きたくないからそうなったということでしょうかね。

さーさん：

そうですね。それで徐々に状態も良くなってきて幼稚園に復帰しようと思っていたのですが、その間に息子と同じクラスだった3人の子がトラブルを起こしてやめてしまったり、お母

さんたちも幼稚園に対して不満や不安を抱えていることがわかって、行くのをやめてしまいました。

いさどん：

それは普通の幼稚園ですか？

さーさん：

キリスト教系の幼稚園でモンテスーリ教育を実践しているところです。考え方としては良いと思うのですが。

いさどん：

どんなところが良いと思っているのですか？

さーさん：

例えば、とことん飽きるまで遊んでいいというところです。お昼ご飯の時間になったとしても、先生が「今すぐ遊びをやめなさい！」とバシッとは言わずに、ある程度は好きなことをやらせてくれるのです。子どもたちの集中が途切れ、ひと満足するまでは見守ってあげる姿勢があり、一斉教育とは違った柔軟性が良いと思っています。

いさどん：

どうしてそれを良いと思うのですか？

さーさん：

そうですね。。

いさどん：

その子たちが大きくなって社会に出た時に、モンテスーリ教育で形成された人ばかりが暮らす世の中ではないとしたら、自分のペースで何でもやる人というのは空気が読めない人になる可能性がありますよね。

さーさん：

そうですね。ただ、そういう自由をしっかりと味わって初めて、他の子に合わせられるのではないかなと思います。

いさどん：

どうしてそう思うのですか？逆の場合もあり得ますよね。そういう自由を持ったらそれが良いことになってしまい、もし小学校から普通の学校に入るとしたら、そういう教育を受けた人は普通の学校のルールについていけなくなって不登校になる場合があるのです。自由で強

い子をつくっていたはずなのに、普通の学校へ行くと、「ルールが嫌だ！」とわがままになって学校に行かなくなってしまい、親たちが悩んでしまっている、という話は私もよく聞きます。

さーさん：

そうですね。自由と放任の違いを見極めることはすごく難しいと思います。

いさどん

そこです！それは親だけではなく、その教育を受ける子どもの側がそれを履き違えることもあります。

さーさん：

そうですね。私も客観的に見たら、履き違えている部分も沢山あるのだらうと思います。

いさどん：

先程、「先生がきついで迷った挙句、幼稚園をやめ、自主保育に通わせることにしました」と言いましたよね。これはさっきの話からすると、自由奔放で自分の才能をどんどん伸ばしてくれる教育方針をあなたは希望していたのに、そこの先生がきついで迷った末、さらに自主保育のところに行くというのはどうしてですか？

さーさん：

モンテストーリーの思想というのは素晴らしいと思うのですが、そのモンテストーリーの思想を理解出来ずにお受験のようになってしまっているところが多いのです。本来モンテストーリーは自由な教育であるはずなのに、教育ママたちがモンテストーリーに飛びついてしまったところがあります。教具の遊び方についても「こうでなくてはいけない」と本人の自由が許されないような、元々のモンテストーリーの狙いとは違うところに行っているモンテストーリー幼稚園が沢山あるのです。

いさどん：

それではモンテストーリーの幼稚園ではないですね。

さーさん：

そうなんです。ただ、私が選んだ幼稚園はそういった問題点も踏まえ、かなり創意工夫をしている幼稚園だったのです。園長先生がとても素晴らしい方で、神様と結婚している修道女の方だったのですが、精神的に不安定なところがあり、お母さんが黙って園長室に入るといきなり怒鳴ってしまうというようなことがありました。

いさどん：

では、なぜそういう園長先生を素晴らしいと言ったのですか？

さーさん：

理想は素晴らしいと思うのです。でも、本人もおっしゃっていたのですが、「私は人格的にでこぼこしています」と。だから、理想は素晴らしいけれど、現実的にはなかなかその理想についていけないところがあるのかなと思います。人間にはみんな欠点があるし、園長先生に人を怒鳴ってしまうようなところがあったとしても、その先生は日々努力をされていて間違っただけをしたらすぐに反省していたので、謙虚な方なのではないかなと思います。

いさどん：

それはあなたが自分で創っているストーリーではないですか？

さーさん：

そうかもしれないです（笑）。

いさどん：

あなたの話はとても流暢ですが、正確に話しているというよりも、自分が勝手に想像して話しているところが大分あるような気がします。

さーさん：

それはあるかもしれないです。

いさどん：

どうしてそう思うのですか？

さーさん：

昨日、「思い込みが激しい性格ですね」とまり姉さんに言われたので、「そうかもしれないな」と思いました。

いさどん：

人に言われたら、早速そう思うのですか（笑）？

さーさん：

今思ったのは、「私って流されやすい性格なんだな」と思いました。

いさどん：

私がなぜあなたに色々な質問をするのかというと、あなたの真意を知りたいのです。今あなたは色々なことを話してきましたが、その背景にどういう心があるのかということを知りた

いのです。

さーさん：

私は今、教育にとっても興味があるので、出来ることなら自分で教育の場を創りたいという想いがあります。

いさどん：

どういう教育をしたいのですか？

さーさん：

私が一番いいなと思っているのは、サドベリーバレースクールという教育です。

いさどん：

それは何ですか？

さーさん：

アメリカから始まった教育なのですが、子どもの可能性を 100%信じて見守るような教育です。

いさどん：

さっきのモンテストーリー教育もそういう教育ではなかったですか？

さーさん：

そうだったのですが、形骸化しているなと思っています。。。

いさどん：

それで、そのサルベニア何とか（笑）は問題ないのですか？

さーさん：

まだ形骸化する前の段階ですし、そんなに主流になっていないので。

いさどん：

そういったことに対してあなたは詳しいのですか？

さーさん：

教育に関してかなり興味があって、出来たらそういう場を創りたいという気持ちがあったのですが、子どもが「幼稚園に行きたい」と言い出したので、それは子どもの選択の自由なの

かなと思ひまして。自分で創ろうかどうしようか迷ったりもしたのですが。。

いさどん：

あなたは、「子どもに対して今の状態で良いものかどうかアドバイスをお願いします」と言いましたよね。あなたの話は「子どもに対してこういう教育をするべきだ」という確信を持っているように聞こえるのですが、その確信を持っているあなたがなぜ私にアドバイスを求めるのですか？

さーさん：

多分、まわりの人たちは私のことを過保護だと思っているのかなと思うことがありまして。。

いさどん：

でも、自分がよく知っているのですから、あなたが良いと思っている方針でやればいいのではないですか？

さーさん：

そういうことを始めてしまった場合、逆に子どもに迷惑になるのかなって。

いさどん：

いやいや、そういう教育方針で学校を立ちあげようというくらいの志があるのですから、まず最初に自分の子どもにその教育の素晴らしいところでもって接すればいいのではないですか？

さーさん：

なるべくそのようには接しているつもりなのですが。。

いさどん：

そうしないと、さっきのモンテストーリー幼稚園の園長先生と同じことになってしまいますよ。理想は素晴らしいけれど、現実はどうでもないということになってしまいます。まずは、あなたが自分の子どもをその教育法でしっかりと育て、それを「この教育の実践の結果です」と見てもらうことが一番なのではないですか？

さーさん：

自分の子どもにそういうことを試してしまっているのかなという想いがあって。。

いさどん：

でも、そうしたら、あなたは他の子どもを預かって他の子どもで試すことになってしまいませんか？

さーさん：
そうですね。。。

いさどん：
自分の子どもで試さないで他の子どもで試すのですか？

さーさん：
それも失礼な話ですよね。。。

いさどん：
あなたが本当に子どもの教育に対して興味を持っているのかということです。あなたの中に何かそういった差し迫った気持ちがあるからこそ、そういうことに興味を持っているのではないかと私は思うのです。

さーさん：
差し迫るというのは、「本当はこうしたい」ということを抑えつけるのが今の学校教育になっ
ていて。。。

いさどん：
なぜそういうことが言えるのですか？

さーさん：
色々な本を読むと、教えるということが押しつけることになっているのではと。。。

いさどん：
誰の本を読んだのですか？

さーさん：
そうですね。。。

いさどん：
あなたは、そういう種類のことが書いてある本を選んで読んでいるのではないですか？今の教育に批判的なものを選んで読んでいますよね。

さーさん：
はい。

いさどん：

あなたは本に書いてあるからそういう想いを持っているのではなくて、あなたが元々そういう想いを持っているから、自分の想いを肯定する本を選んで読んでいます。だから、自分の想いに共通していないことが書いてあると、途中で読むのをやめて、自分に共通するものだけを選んで読んでいないですか？

さーさん

はい、そうだと思います（笑）。

いさどん：

大切なのはそこです！そういう発想を引き出しているあなたの元の心を知ることが大切なのです。どうしてあなたは今の教育に対してそういう想いを抱いているのでしょうか？

さーさん：

教育の多様性を推し進めている人が千葉にいるのですが。。

いさどん：

それも同じことですよね。あなたが好む人を探して行って、「この人は素晴らしい人だ」とか、「この教育法は素晴らしい方法だ」と言っているわけです。しかし、実際には 99%の人は普通の教育の中で教育されていて、あなたの言うような教育の弊害が出ている人もいれば、全く出ていない人もいると思うのですが、どうでしょうか？もしあなたの言う通りだとしたら、今の教育を受けた人はすごく偏った人ばかりということになりますよね。私も一般の教育を受けてきたのですが、どうもそういう人とは違うような気がするのですが。

さーさん：

例えば、普通の学校教育を嫌だと思ってしまう子が 2 割くらいいるとしたら、その子たちが安心して通えるような学校のスタイルがあってもいいのかなと思うのです。

いさどん：

逆に、2 割の人が今の学校教育が嫌だからと別の受け皿に行ってしまったら、その残りの 8 割の人たちは多様性を学べないということになりませんか？

さーさん：

そうですね。。

いさどん：

それともう一つ、2 割の人たちをあなたはかわいそうと思うかもしれませんが、そのことによってこの人たちが社会というものを知っていくとしたら、これも教育の場だと思うのです。

しかし、あなたの発想では、彼らからその機会を奪ってしまうことになりませんか？自分の御機嫌な場所を選ぼうとする人を育てることになりませんか？

さーさん：

選択肢がある世界というのもいいのかなと。。

いさどん：

選択肢はいくらでもあります。社会へ出てからでもいくらでもあります。心配することはありません。だからこそ、ストレスも受ける必要があるのです。そういう中でこそ、自分というものを見つけるチャンスがあるのです。それを、「あなたはそこに似合わないから」と言っていて、大人の都合の線引きでその2割の人を仕分けてしまったら、実は2割のところにおいても全体の中にいることによって、将来8割の方に行く場合もあるわけです。逆に言えば、8割の方から2割の方へ行く人もいるわけです。しかし、あなたの発想はそういった機会を奪うことになりませんか？それこそ、私は横暴だと思うのですが。

さーさん：

そうですね。海外に比べて日本では学校を立ち上げることが難しいですね。海外では親たちがもっと自由に自分たちで学校を創れるようですが。

いさどん：

海外の事情をどうやって調べたのかは知りませんが、そういうことが緩いところだけを見てそういうことを言っているのではないですか？海外でも日本よりももっと厳しいところは沢山ありますよ。

さーさん：

そうですね。。

いさどん：

自分と共鳴する情報だけを求めているのではないですか？

さーさん：

そういうところはあると思います。

いさどん：

そして、それが日本の教育の問題点、海外の良いところと言ってないですか？私は今までそういう人たちに沢山出会ってきました。健康法でも色々なセミナーをする人たちでもそうですが、それが自由な人を創るのではなくて、人の自由をどんどん奪っていくと私は見ています。こういう私の観方は間違っていると思いますか？

さーさん：
私もバランスはすごく大切なのだと思っています。

いさどん：
それはいつから思っているのですか？

さーさん：
つい最近かもしれません。

いさどん：
なぜ最近思い始めたのですか？

さーさん：
個人的に私はヒーラーを目指していて。。

いさどん：
あなたはジャンルが広いですね（笑）。今度はヒーラーですか？

さーさん：
はい。

いさどん：
あなたにとってヒーラーとは何ですか？

さーさん：
人を癒す人です。

いさどん：
あなたは今、自分の人生も自分で癒せていないのに、どうやって人を癒すのですか？旦那さんのことや子どものことでめいっぱいになっている人が、どうやって人を癒そうとするのですか？

さーさん：
20歳くらいからヒーラーになりたいなと思っています。。

いさどん：
なろうと思うことは構わないのですが、それが適切かどうかということです。ヒーラーとい

うのは、その人の精神性が相手に大きく影響するのです。それに、非常に客観性がありかつ安定した心がないと、自分の問題も相手に与えることになりかねません。ヒーラーの資格はどうやって取るのですか？

さーさん：

経緯が長くなってしまいますが、ヒーラーになりたいと思っていたのですが、私にはカウンセリング能力も客観性もないのでマッサージの資格を取ることにしたのです。マッサージだったら、にこにこ笑ってマッサージをしていたらいいのかなと思ひまして。

いさどん：

マッサージ、整体師、それから精神科医や臨床心理士といった人たちは、精神的に具合の悪い人たちと接するものです。そうすると、人間のカルマという毒の影響をすごく受けるのです。その人がよっぽど安定していて、自分というものをちゃんと確立している人なら向いているのかもしれませんが、それを逆に受けてしまい自分の方が不安定になるような人には向きませんよ。

さーさん：

そうですね。。。

いさどん：

あなたの人格を見ると、とてもそんなことをやれる人ではありません。さっきから私が質問をしているのも、あなたは自分に似合わないこと、自分が到底やれないことをやろうとしているからです。なぜかと言うと、今あなたがやろうとしていることはすべて、自分が不足しているから満たされようという心から来ているのです。だから、人のためにしているのではなくて、自分の不足感からそれを満たそうとしているだけなのです。あなたが人を癒したいというのは、自分が癒されたいからそう考えるのです。しかし、自分がしてもらいたい人にはそれが出来ないものです。それが成就しないことが正解になるのです。

さーさん：

成就しないことが正解？

いさどん：

つまり、それが上手くいかないというのが与えられる答えになるのです。

さーさん：

自分も本当はやりたいことがあるのですが、結局自分に出来ないことをやろうとしているから、足が一步も出ないということですよ。

いさどん：

あなたはそういうことにふさわしくないのです。それよりも、自分が不足していてそういう癒しを欲しいと思ってきた人です。そうやって育ってきました。

さーさん：

そうですね。

いさどん：

あなたはお父さんやお母さんとの関係から今の自分が出来上がったと思いますか？

さーさん：

そうかもしれないです。

いさどん：

そうかもしれないというのは？

さーさん：

先月あるセミナーに参加しました。悪いところではないと思うのですが、「後から過去の記憶が出てくるかもしれない」と言われて、初めて思い出したことがありました。

いさどん：

その前に、なぜあなたはセミナーに行かないといけなかったのですか？

さーさん：

その頃は旦那さんとの関係が悪くなくて、逃げ出したかったことがありました。

いさどん：

そうすると、セミナーが逃がしてくれるのですか？

さーさん：

いや、やっぱり離婚はしたくないですし。。

いさどん：

離婚をしないで逃げ出す方法があるということですか？

さーさん：

いや、今思えば私の中に原因があったと思うのです。旦那さんはすごく甘えん坊で、毎朝抱っこをしないといけないということがすごく嫌だったんですね。受け止め切れる自分ではな

かったということです。

いさどん：

今、私が一番興味を持っているのは、なぜこの結婚がされたのかということです。なぜあなたがこの人を選んだのか、という元があるのです。さっきの幼児教育でもセミナーを受けることもそうですが、自分が本当にやろうとしていることではなくて、自分の不足していることをやろうとすることに転換しているように思うのです。だから、彼に対して彼を愛しているからということではなくて、自分の心の何かをだぶらせてあなたは彼と一緒にあったと私は想像したのですが。

さーさん：

私も結婚する前、彼と結婚することが現実的に思えなくて、何度か逃げ出そうとしたのですが、逃げ切れなかったというか。。

いさどん：

それは何から逃げられなかったのですか？

さーさん：

「自殺をされたらどうしよう」と思ってしまって。。

いさどん：

それは彼の人生だから仕方がないではありませんか。それは一種の脅しのようなものではないですか？

さーさん：

そうですね。以前はもっと自分のことがわかっていなくて。。

いさどん：

もっと言えば、「自殺されたら困るから結婚した」と言いますが、なぜそこまで深く付き合ったのですか？もっと早くに縁を切れれば良かったではないですか？

さーさん：

「別れよう」と思うたびに彼の家族に会ってしまって、彼の家族が好きだから何となく。。

いさどん：

でも、家族と結婚するわけではありませんよね。

さーさん：

後悔しています。。

いさどん：

だから、おかしいのです。あなたがなぜこの結婚をしたのかというと、わかりやすく一言でいえば、あなたの心が歪んでいるからです。結婚というのはまずは自分が主役でいいのです。次に相手が現れてお互いの幸せでいいのです。そして、その次に子どもが出来て3人の幸せでいいのですよ。結婚の最初はエゴでいいのです。自分の望みを叶えるものです。しかし、あなたの心は歪んでいるから、「自殺されたら困る」とか、「彼の家族が好きだから何となく結婚した」と言うのです。

どうしてそういう人間形成になったかというのが、今日の私の興味です。そこが発端なのですが、それがどこから発生したのかというと、普通に考えれば親との関係から来ています。あなたは、子どもの頃から人の顔色を見ながら自分のやりたいことをやらずに、人から良い評価を得られるように生きてきたのでしょ。う。「旦那さんに幼児性がある」とあなたは言いますが、今まで十分に自分らしさを発揮してこなかったから、あなたにも幼児性が残っているのです。そういう不足の部分を埋め合わせようとする結果、本を読んだり勉強することで知識を積み重ねて行って、そこで自分のフラストレーションのエネルギーを持っていつているような気がします。だから、やることがすべての的を射ていないことになります。そして、その結果、子どものことや旦那さんのことで悩んでいるのです。子どものことでいえば、本当に子どもの不適應で子どもが喘息やアレルギーになって、それで幼稚園に行けなくなったのかというと、その下地はあなたが子どもと接することによってつくられ、さらに幼稚園に行ったことによって出てきたという可能性もあるわけです。子どもが不適應だったのではなくて、あなたが子どもに与えたものが不適應として出てきたものです。そこではあなたは自分の持論に合わせていくわけです。「これはあだから、あれはこうだから」と本を読みながら、また次のことを探して考えていくわけです。すべてはそのあたりにあると思うのですが、どうでしょうか？

さーさん：

そうですね。あとは、私は世間の顔色を伺って芯がないというか、とにかくまわりから批判されないように取り繕うとしてきました。

いさどん：

あなたは、「彼が死ぬかもしれないから別れなかった」と言いますが、その結果このままいくとあなた自身が行き詰まるのではないですか？

さーさん：

今までずっと行き詰まっていたのですが、最近旦那さんも大分丸くなって努力してくれています。

いさどん：

それは一時的なものではないですか？なぜなら、行き詰まりの原因はあなたにあると思うからです。つまり、彼の問題があなたを行き詰まらせているのではなくて、あなたの問題があなたを行き詰まらせているとしか見えないのです。そうしたら、彼がいくら変わろうがどうしようが、一時彼の雰囲気が変わったからといって楽になるかもしれませんが、いずれはまたあなた自身があなたを行き詰まらせるのだらうと思います。彼を選んだのもあなたですし、全部あなたが選んできているのです。

さーさん：

彼も努力しているから、私も努力して。。

いさどん：

どうやって努力するのですか？手法は結局同じですよ。今まで身につけてしまっているやり方以外に何かありますか？

さーさん：

例えば菊池由美さんが日本に紹介したホーポノポノとか。。

いさどん：

ここにもホーポノポノをやっている人が来たこともありますよ、ものすごく勘違いしている人も中にはいます。

さーさん：

たしかに、受け止め方は自由ですから。。

いさどん：

そうです。だから、大いに勘違いしている人がいるのです。そうすると、あなたは「自分は大丈夫です」というようなところがあるのですが、先程のモンテストーリー教育でもあなたはザクザク切っていますよね。あなたは、「ここがこうだからこれが間違っていて、園長先生はこんなふうで素晴らしい人で、その理念は素晴らしいのだけれど、現実は伴っていません」とザクザク切っているのですが、そのあなたがどういう状態なのかということをもっと知るべきだと思います。

さーさん：

そうですね。

いさどん：

これはすべて自業自得ですよ。しかし、それを超えていくのに、あなたはまたどこかの本を探してきて「これならいけるだろう」とやるのでしょうか。私のように頭が賢くない人は本を読むのも時間がかかるし、人のことはよくわからないから、私は自分の直感で思ったように人を観て、正直に自分を表現しています。人の話は100人聞いたら100通りありますから、そんなに沢山学んだら頭が混乱してきませんか？

さーさん：

木の花さんのような場所に出会えて嬉しかったので、こういう場所がもっと沢山あったらなと思うと。。。

いさどん：

ここは素晴らしい場所です。しかし、ここが素晴らしいと理解出来る人には素晴らしいのです。ここが素晴らしいと思えない人も沢山いるのです。

さーさん：

ここが素晴らしいところだとどんなに沢山の人に伝えても、逆に心配されることもあって。。。

いさどん：

そうです。それはあなたが選んだところだから、余計にみんなは心配するのです。

さーさん：

私が選んだから心配なのですね（笑）。

いさどん：

そうです。あなたは今まで色々なことをしてきましたが、良い形であなたに反映されているものはないのでありませんか？

さーさん：

全くないとは思いませんが。。。

いさどん：

では何があるのですか？その集大成が今のあなたの家族の状態だと私は思いますが。

さーさん：

レイキというヒーリングを。。。

いさどん：

今度はレイキですか（笑）。レイキをやっている人もここには沢山訪れますが、中には本当

に混乱している人もいました。「あなたはレイキを通して何をやるのですか？」と聞くと、「人を癒します」と言うのです。ですから、「まずは自分が安定してからやりましょう」と私は伝えるのです。レイキのトレーニングを受け、人に施すための資格を取得したとしても、ここに来たその人を見るとその人自身が不安定なのです。

さーさん：

実は、ロミロミというマッサージを習った時にレイキもセットになっていたので習ったのですが、その先生の人格があまりにも悪かったので、「レイキをやってもこの程度なのかな」とは思っていました。でも、私は上手くいかなかったけれど、呼吸法やヨガのように本当に努力すれば良いものなのかなと。私にもちょっとは役に立っているという気はしています。

いさどん：

それは私が、「あなたのやってきたことは、有益な結果を出したものがないのではないですか？」と聞いたことに対して、「少しはあります」ということを言いたくてその話を出したのですか？

さーさん：

そうですね。

いさどん：

私から捉えると、そのレイキのことすら中途半端ではないですか？そんなことはどうでもいい話ではないですか。

さーさん：

私は上手く行かなかったけれど、上手く出来ている人も沢山いるのかなと。。

いさどん：

今は他の人の話は一切していませんよ。モンテストーリー教育でも、合う人には合うのです。そうしたら、あなたに合わなかったのですから、今はあなたがやってきたことを話しているのです。

さーさん：

でも、レイキはやって良かったなと自分では思っています。

いさどん：

良かったかどうかはその人の主観ですから、そんなことはどうでもいいのです。例えば、ある夫婦がケンカばかりしているとします。それを外から見ている人が、「気の毒だな」と思って、「とても見ていられないから、別れた方がいいですよ」と言ったら、「私たちのことは

放っておいて下さい」と反対に叱られた、という話はよくあります。ですから、あなたが良いと思うのはあなたの自由です。しかし、それがあなたに活かされているかどうかはまた別の話ではないですか？例えば、お金も暇もあるから毎日お酒を飲んでいたとします。自分が満足しているからといって、「私が飲みたいからいいじゃない？私はお酒があるから幸せなのよ」と言って、お酒がないと生きていけなくなった。それでも飲み続けて、「いいの、私はお酒で死んでもいいのだから」という人がいたとします。それでいいと思いますか？

さーさん：

いえ、そうは思いません。

いさどん：

それと同じような話だと私は思うのです。人は自分の望みが叶ったからと言って、良いとは言えないのです。その望みの持ち方に問題がある場合は、問題ある答えが出るのです。ただ、本人はそのことに気づいていないだけのことです。あなたの話を聞くと、すべて独りよがりではないですか？

さーさん：

申し訳ないのですが、少し混乱してきてしまっ。。。

いさどん：

混乱しているのは大丈夫ですよ。私は今わざとあなたを混乱させているのですから。あなた流の信念を壊す必要があると思って、私は今こういう場所をつくっているのです。あなたが何かを言うたびに、私は反論をしているわけではありません。あなたが言うことに対して、「こちらから見るとこうですよ」と違う情報を与えているだけです。「ホーポノポノでもレイキでもセミナーでもあなたの言うように見えることも確かですが、捉え方を変えるところです」と。トータルしてあなた自身の心がどういう状態なのかということからしたら、あなたは健全だからそれを選んでいるのではなくて、不健全だからこそそういうものを求めているのです。あなたは健全になろうとしてそうしているのではなくて、不健全な自分の言い訳を一生懸命探し続けているのです。

さーさん：

私は本当に無駄で有益ではないことばかりをしてきていたということですか？

いさどん：

それはあなたからしたら不愉快なことです。私はそういうことを言っているわけではありません。無駄で無益なことをやってきたかどうかは、あなたが気づいて「そうですね」と言えばそうです。それは、あなたの心次第でどうにでもなるのです。私はそういうことをあなたに言わせようとしているのではなくて、あなたが言っていることに対して違う情報を出してい

るのです。そのことによってあなたが混乱しているのは、自分に確信がないから混乱しているのですよ。確信がないのにやっているあなたをあなたに見せようと思って、私は今この場をつくっているのです。そのことによって、「私はこれがいい、あれがいいと今まで色々なものに飛びついてきたんだ」と自分を見直すチャンスになったらと思っています。

さーさん：
ありがとうございます。

いさどん：
「ありがとう」というのは、本当にそのことが受け取れて、そういう姿勢になった時に「ありがとう」なのです。今、私はあなたの人生にとって重要なアドバイスをしていると思います。それこそ私がセミナーを提供している人であれば、お金が目的だからあなたをリピーターにするためにあなたの御機嫌を取って、あなたの自己実現を叶えるためにどうしたらいいのか、アドバイスをするでしょう。しかし、私はそんなことよりも、あなたの正しい状態をあなたに伝え、なぜその混乱があなたに起きているのかということ伝えたいのです。それが一番あなたにとって大切で、あなたを救うことになるだろうと思っています。私はあなたと全く利害関係がないので、正しいあなたの状態を伝える立場にいるのです。

さーさん：
言われていることをちゃんと理解出来たらいいと思うのですが、頭の中がわーっとなっていて。。。

いさどん：
今理解出来なくても、混乱していることで成果が出たと受け取ればいいのです。今まであなたは混乱してきませんでしたから、次から次へとあなた流の手を打ってきたわけです。そのことが今までの問題を起こしてきたのですよ。これは客観的に観たら当然の話です。ですから、あなたが今混乱しているということは良いことです。もう自分流の理論が成り立たなくなっているわけですから。

さーさん：
きっと大切なことを伝えてくれているというのはわかるのですが、それを理解するには私の頭のキャパを超えていて難しいです。

いさどん：
キャパを超えているということは良いことなのです。だから、あなたが自分のキャパの中でやり続けている限りは今までのあなたでい続けるので、まわりも含めたこういった状況は改善されないということです。一度自分を壊して、冷静にもう一度自分を積み直していくという作業が必要だということです。しかし、そこであなたが自分に執着して、「私は今の自分

を捨てたくない」というのであれば、私の力はあなたに通用しないのです。それはわかりますよね？あなたは今まですごく勉強してきて、自分がやってきたものに確信を持っているのですから、まずはそれを捨てないといけないのです。全部無益だとは言いませんが、発想の出発点が違っていただけです。その歪みを正し土台から積み直してみたら、今度はすべて有益になってくるのです。

さーさん：
土台の部分をやり直していくということですか？

いさどん：
やり直す必要はないのです。発想が違うのだから、発想を転換すれば景色はすべて変わっていきます。つまり、あなたの発想が切り替わった時に観る視点が変わるということです。それはこちらから観ていたのを向こうから観るということです。その時に、「私のやっていたことは本当に空回りだったんですね」とあなたからそういう発想が出てくるでしょう。私が「あなたのやっていることは空回りですよ」といくら言ったところで、そう思わないあなたがいる限りはどうしようもありません。仮にそんなことを思わせても、押しつけただけのことで何の益にもなりませんし、それは私の意図することではありません。私はただ情報提供しているだけなのです。ここであなたと私の間に利害は何もないのですから、私は私の視点に執着しているわけでもありません。ただ、あなたが色々なことで困って行き詰まっていると私に相談をしに来ているので、問題を解決するためのお手伝いをしているのです。私があるあなたの行き詰まりを解決してあげるわけではありません。うつ病の人でも誰でもそうなのですが、私が治してあげるということは絶対にありません。ただ情報提供をするだけです。

そして今、私はあなたに情報提供をしました。それを受けて、あなたの中で今までやってきたことが崩れたのです。だから、混乱している状態なのです。あなたはそんなに簡単に崩れるものに対して確信を持ってやってきたということではありませんか？もしあなたが自分に執着していたら、「この人に私は誘導された、混乱させられた」と思うかもしれません。しかし、今の状態が自分にとって本当に辛ければ、「私の視点はそんなふうに脆いものだったんですね。あなたの言うことに私も納得出来るからこそ、私の考えが崩れて混乱しているのですよね」ということになるのです。

さーさん：
私も「どうしたらいいのだろう？」とずっと考えてきて。。

いさどん：
そうですね。ただ、その解決策はあなたの中にはないのです。

さーさん：

そうですね。

いさどん：

それにもかかわらず、あなたは「こうしたらいいだろう、ああしたらいいだろう」と、今までも次々と新しい手法に飛びついてきたように、また何かをしようと言い出すのです。

さーさん：

「どうしたらいいのだろう？」という気持ちのままでもいいということですか？

いさどん：

そうです。自分で答えを出せない、自分の中に答えがないということ、そういう自分だということをもまずは知る必要があるのです。あなたには何か足りないのです。子どもの頃から何か足りないで来たのです。

さーさん：

それはよくわかります。

いさどん：

その足りない部分を自分で求めて獲得しようとしてきたのですが、それは「いただく」ということによって埋め合わされるのではないですか？

さーさん：

いただくのですか？それはどうしたらいいのか、よくわからないのですが。。

いさどん：

それはそうですよ。いただくというのはこちらが獲得することではないのですから。

さーさん：

自分で獲得しようとしていたものをいただくということですか？

いさどん：

自分で獲得しようとしているということは、あなたはまず謙虚ではありませんからね。謙虚でない人には何も与えられません。いただく時には「ありがとうございます」という心がないといけません。あなたには感謝の心がないのですから。ホーポノポノを学んでいたら、「ありがとうを言うことは良いことだ」と知識では習うかもしれませんが、心の中にその感謝が育っていないのです。だから、あなたは本を読んだり自分で行動することによって何でも勝ち取ろうとするのです。

さーさん：

どうしたらいいのでしょうか？どうしたらいただくということがわかるのでしょうか？

いさどん：

いつまでここにいますか？

さーさん：

明後日のお昼に帰ります。

いさどん：

では、一人でじっくり考えてみたらどうですか？今まで自分が何をしてきたのか。いただくということはどういうことなのか。何が今まで自分に不足していたのか。そして、何を求めているのかということを考えてみたらいいと思います。私がここであなたに答えを出すことは出来ますが、それだとあなたは自分で考えずにそれを得てしまうことになります。しかし、自分自身で気づいた方がいいのです。

さーさん：

気づく力は私にあるのでしょうか？

いさどん：

あります！誰もが神様の手の中にあるのです。気づくというのは自分で気づくものではありません。いただくことです。気づきというのは考えた延長に出てくるものではないのです。一生懸命でいると、ふっと湧き出てくるものです。それはこの宇宙の奥にあるところから湧き出てくるものであって、あなたの中から湧き出てくるものです。違う言い方をすれば、あなたもこの世界の中に創られたものだとしたら、この世界が創っているあなたの中から湧き出てくるものであって、「自分が自分が」というところから湧き出てくるものではないのです。

それには自分を手放さないとダメですね。そして、あなたは自分が癒されようと求めてきたけれど、実は沢山与えられていたことに気がつかないとダメです。

あなたの心の歪みはあなた一人がつくったわけではありません。生まれてきた環境によってあなたに歪みが与えられて、歪んだ形で自己表現をしてきた結果、今のあなたになってきたのです。

明日、またお話しする機会を持ちましょう。何でもそうですが、「これがダメならあれ、あれがダメならそれ」と次々と変えていくだけがいいのではないのです。本当に大切なものには熟成期間が必要なのです。あなたは欲しいばかりで、急ぎすぎなのではないですか？

さーさん：

でも世の中にここみたいな場所が沢山出来て、みんなが安心して暮らせたらいいなと思うのです。

いさどん：

私もそう思うからやっているのですが、でもそれも世の中の人々がそれを大切だと気づかないと出来ないことです。そして、世の中の人々がそのことの大切さに気づけば、自然と出来てくることなのです。だから、つくるものではないのです。私は自分のためにそれをやろうとしているのではありません。社会の人々を見ていると、本当のことを知りません。自分の本当を知らない。だから、混乱しているのです。その人たちのためにこういったことをしています。だから、私はあせりません。私のためにやろうとしているわけではないからです。ですから、こういう場所が沢山出来たらいいと思うのも、それはあなたの心の中の不足感からそう思うのです。発想の出発点が違うのです。

あなた自身の心の想いから、「自分のためにこういう場所があってほしい」と思うのと、「本当に世の中が健全になってほしいから、こういう場所があってほしい」というのは同じでしょうか？自分が救われたいから神様の道に歩んだ人と、マザーテレサのような人との違いはあると思いませんか？

さーさん：

あると思います。

いさどん：

その違いだと思うのですが、どうですか？つまり、同じ求め方でも価値は違うのです。

さーさん：

出てくる源泉が違うということですよ。

いさどん：

そうです。その源泉に気づかないといけません。

さーさん：

私もその源泉に気づけば、人の役に立てるようになれますか？人の役に立ちたいという想いが強いのです。

いさどん：

歪んでいるということは、あなたはそれだけ複雑な苦勞をしているわけです。しかし、人の役に立ちたいという想いもあるのですから、今までのねじれたエネルギーをストレートに変

えてやれば、いつでも有益になります。

さーさん：

努力して変えていけば。。

いさどん：

これは努力してなるものではありません。気づきですから、いただくことです。さらに言えば、「信じる」ことです。信じられるようになったら大丈夫です。あなたは信じていないのです。自分の努力だと思っているのです。もっと言えば、「頑張る」になっているのです。頑張ると確実に害は出ますよ。

さーさん：

最近、「委ねる」ということが大切なのかなとふっと思うことはあったのですが。。

いさどん：

ここにいる間はとりあえず、私に委ねてみて下さい。あなたの知らないあなたを情報提供として伝えることは出来ます。ただ、それを受け取って活かすかどうかはあなた次第です。「最近、委ねるということが大切なのかな」と思うようになったというのは、そろそろそういう時期が来たということでもあるわけです。だから、委ねていい場所に来た、神様がそういうふうに通されたと考えてもいいのです。同じことをしていても良い結果が出ていけばいいのですが、行き詰まっているのに同じことばかりしていても、仕方がないですよ。次のステージに行く時が来たのではありませんか？

そうすると、あなたは息子さんのことも旦那さんのことも考えなくていいわけです。すべてはあなたの自己表現だと捉えれば、あなたにふさわしい答えが色々なところから出てきているのです。ですから、あなたが変われば、それにふさわしい環境が自動的に整備されるということです。

さーさん：

でも、あまりにも旦那さんが甘えん坊で、今朝も1時間くらい抱っこして。。

いさどん：

それはそうするあなたがいるから成立するのです。

さーさん：

私が彼を甘やかせる環境をつくっているということですか？

いさどん：

そうです。

さーさん：

でも突き放してもいけないと思うのですが。。

いさどん：

あなたはそうやってすぐに決めつけるのです。突き放すのはあなたが嫌な場合です。そういう中途半端な駆け引きをしてきた結果、こういう歪んだ夫婦関係を築いてきたのです。

さーさん：

私も加担してそういう場所をつくってきたと。。

いさどん：

そうです。これは50：50の関係ではありません。彼には幼児性が残っていて、まだ十分成長していないかもしれませんが、その受け皿としてあなたがいたからこの結婚が成り立っているわけですし、大体あなたにその意思がなければこの結婚はとっくの昔に破綻しているはずです。それを全部、「彼がこういう人だから」とあなたは彼のせいに行っているのです。

さーさん：

そうですね。。では、破綻させればいいのでしょうか？子どもがいるので離婚だけは避けたいのですが。

いさどん：

私がそんなことは言いません。そうやってあなたはいつも自分の世界を展開していくのです。「もし、あなたが彼の求めに応じてこなかったら、この関係は破綻していますよ」ということを伝えているのです。しかし、彼をそういう人にしたのはあなたにも責任があるのです。彼が求めて、あなたが彼をそういう人に育て、だからあなたは「彼が求めるから」と言うのですが、実はあなたが彼をそういう人にしたのです。

さーさん：

では、私が変わればいいのですよね。私が変われば環境が変わっていくと。

いさどん：

さっきもそう伝えました。あなたは自分が強いので、何回も同じことを伝えないとわかりませんか？自分が強いということは、自分の能力に頼りすぎて生きているということです。本を読んで学ぶということに頼りすぎてしまっているのです。教育法で子どもは育てられないですよ。

さーさん：

では、子どものことはもう考えないでおきます。

いさどん：

なぜそういうことを言わないといけないのですか？子どもは大切だから大切に育てないとはいけません。もし優れた教育法があれば、健全にバランス良く取り入れるのは大切なことです。つまり、あなたのそういう発言の奥には、あなた自身が子どもを育てていく余裕がないということを表わしているのです。しかし、「私はあの子の母親だし、世間の手前、私はしっかりとした母親をやらないといけない」という義務感の方が強いから、今のようなことになっているのです。だから、「手放してもいいのであれば、子どものことは放っておいてもいいのですね」という発想になるのです。

さーさん：

いや、そこまで思っていない。普通でいいのかなと。

いさどん：

普通というものを知っているのですか？どこに普通の基準を持っているのですか？

さーさん：

ごく普通の学校に。。。

いさどん：

しかし、ごく普通の学校というのが良いかどうかはわかりませんよね。あなたは今まで普通ということ否定してきましたよね。普通というものを否定して普通ではないところを選んだのなら、あなたは何を選んだのですか？普通の幼稚園に子どもを行かせないで特殊な幼稚園に行かせたということは、「普通のところが間違っているから、特殊のところへ私は行かせているのです」という信念で今までやってきたのですよね。「世の中がそれをわからないのだ」ということではないですか？それなのに、もうころっと変わってしまっ、あんなに批判的だったところを普通にして「そこに行かせればいいんですよ」ということになる、今まであなたが良いと思っていたところが問題があるところになってしまいます。そのくらいあなたの持論というのは、筋道を通していくとがたがたに崩れてしまうものなのです。あまりにも自分流に組み立てすぎてしまったから、一回崩れてしまった方がいいのです。旦那さんとの関係でも子どものことでも問題が起きているのですから。自分が普通だと思ってやってきたことが問題を生み、そのことに気づけない状態になっているのですよ。

私は今、もつれた糸をほぐすように、今のあなたの状態をほぐしているのです。でもあなたからすると、もつれている状態が普通だと思っているので、ほぐそうとすると混乱してしまうのです。1本の真っ直ぐな糸にしたら、どうしていいかわからない状態になってしまうの

です。しかし、その糸を真っ直ぐな状態にすれば、正しいものを正しく観て、いけないことはいけないと観る健全な状態です。それは今まであなた一人では出来なかったことなのですから、それこそ「いただく」「委ねる」ということになるのです。あなたは縁があって私に相談をしていますので、私の役割として私はあなたの糸をほぐしてあげるお手伝いは出来ます。でも、私はほぐしてあげることはしません。あなたがそのことに気づいていかないとはいけないのです。あなたのもつれ方は激しいので、やりがいはありますよ（笑）。今日一日ですべてをお話ししたら、混乱しっぱなしで消化不良になると思いますから、とりあえず今日はこれで終わりにします。そして、明日またお話ししましょう。

さーさん：

一生懸命お話ししていただきありがとうございました。

いさどん：

一生懸命は話していません。見える景色を、本を読むように伝えただけです。真実はエネルギーがかからないものなのです。しかし、真実から外れるとすごいエネルギーを使って、努力して頑張っ、その結果混乱に至るのです。ですから、つまらないエネルギーを使うのはやめましょうね。もっと少ないエネルギーで、大きな効果を得ることが出来るのですから。それが「ありがとうございます」という感謝の心です。頑張っ努力して勝ち得た人は「ありがとうございます」という心にはなりません。「私が勝ち取ったんだ」というどんどん謙虚ではない心をつくっていくのですから。自分で頑張っ努力をしなくても、心を正しい方に持っていたら、「おかげさまでこうしていただき、ありがとうございます」ということになるのです。それがありがたいということです。